

BP
business partner

大塚商会の販売最前線からお届けするセールスノウハウマガジン

Navigator

2013
vol.
66



【巻頭特集】

2013年のITビジネス市場予測

パートナー様の ITビジネスを飛躍の年へ

●New Year Opinion

株式会社大塚商会
代表取締役社長

大塚 裕司

パートナー様に大きな
チャンスが到来
皆様と共に発展できる
関係を目指します

ITベンダーのキーパーソンに聞く
**2013年 企業のIT化を再提案
新たな価値の創造に挑む**

大塚商会グループ会社年頭メッセージ
業務効率を高め、
生産性を向上させる
ITソリューションの提供により、
パートナー様のビジネスを
支援します

●CAD情報

ビジネス拡大のキーワードは「スマートアプローチ」
さらに販売力を強化しパートナー様を支援いたします

●SaaSビジネス最前線 BP PLATINUM Type-S
オンラインファイル共有サービス
『BAZA CLOUD』

●Navi Value

新春特別企画 サービス&サポートガイド
2013年の一押しサービスはこれだ!

Presented by
Otsuka Corporation

New Year Opinion 2013

パートナー様に大きなチャンスが到来 皆様と共に発展できる関係を目指します

株式会社大塚商会
代表取締役社長

大塚 裕司



大塚商会の豊富な商材とサービス ソリューションをご活用ください

国内の経済情勢は、予断を許さない状況のなか、ますます格差が広がると予想されています。新しい政府は、円安政策へと大きく舵を切りました。今後、電力コストの問題はさらに深刻化し、節電対策や省エネ対策が大きなテーマとなりそうです。また、Windows XPのサポート切れの期限は、約1年後に迫っています。それに加えて、IPv4アドレスの枯渇によるIPv6への切り替えも急務です。XPからのリブレースとIPv6化、さらには消費税の増税対応など、やるべき問題は山積みとなり、2000年問題のときと同じ状況が想定されています。これらが一気に動き出すと、パートナーの皆様の大きなビジネスチャンスとなります。

大塚商会は、コピー機販売中心の時代から、ハード、ソフト、SI、サービス&サポートの拡充、さらに文具や生活用品、そしてオフィスサプライなどに商材の幅を拡大してまいりました。パートナー様は、大塚商会の豊富な製品はもちろん、多彩なサービスやソリューションを自社の商材としてご案内いただけます。さらに、製品販売の在庫リスクやサポート対応は、弊社におまかせください。物販だけでなく、高度な知識を必要とする複雑な最新ソリュー

ションのご案内であれば、専門スタッフが同行し、パートナー様の営業活動をサポートいたします。

「良いものを速く、より安く」提供するだけでなく、独自のサービス&サポートをアドオンすることで、他のディストリビューターとは違う部分でパートナー様と信頼関係を築ければと思います。また、スケールメリットを生かすことで、パートナー様の利益確保のお手伝いも可能です。2013年、大きなチャンスを逃さないためにも大塚商会をご活用いただき、パートナー様のビジネスにお役立てください。

ビジネスの幅を広げる 付加価値サービスをプラス

震災以降、BCP対策のソリューションや節電対策が注目を集めています。最新の省電力PCやサーバの入れ替えの際には、LED照明やオフィスサプライ、そしてサービス&サポートをお勧めください。機器の単体販売に付加価値サービスをプラスすることで、パートナー様のビジネスの幅は広がります。

これまで大塚商会は、製品カテゴリごとに担当営業がお客様のもとへお伺いする分業型の体制でしたが、一昨年より、複数の分野の商材を一括して提案する体制を推進しています。営業窓口の一元化により、すべてのご要望にお応えできれば利便性は向上します。その際の営業ツールとして、弊社の営業職2,500名に配布したiPadは、営業活動の効率化と知識の平準化に効果がありました。昨年は、このトータルソリューションによる営業活動が実を結び、何年かぶりに公表予算を上方修正できました。

この最新ノウハウをご活用いただくことで、パートナー様のビジネスボリュームの拡大に貢献いたします。今後、さらに商材をクロスオーバーさせながら、パートナー様にご利用しやすい環境を提供いたします。



気軽に相談してもらえる 関係づくりを目指して

2013年のBP事業部は、パートナー様がより相談しやすい環境を提供できるように努力したいと考えています。「街の電気屋さん」のような親しみやすさを心がけ、オフィスの困りごとがあれば、まず、お声をかけていただき、気軽に相談してもらえる関係づくりを大切にしたい。そして、ご相談をいただいたからには、「相談して良かった」と思ってもらえる製品やサービス、ソリューションを提供いたします。その関係を実現するのが、大塚商会が取り扱う商材の幅広さであり、私たち独自のサービス&サポートです。引き続き、業務を効率化し、生産性を向上させる商材やサービス、ソリューションを拡充してまいります。そして、作業効率が高まれば、経費の低減につながることを皆様にお伝えいたします。

今後もお客様と共に、お客様の目線で、已年にふさわしく、ビジネスを拡大する一年にするべく、BP事業部はより精一杯努力いたしますので、今年もより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



2013年、パートナー様の 声に耳を傾け、エンドユーザ様の ご要望にお応えする サービス&サポートをご活用ください

株式会社大塚商会
取締役 兼 常務執行役員
ビジネスパートナー事業部長

塩川 公男

ITの力で生産性を高め 経費を削減するお手伝い

昨年を振り返りますと、国内の景気は穏やかな回復傾向にあるものの、不安定な国内政治や中国・韓国との緊張関係、欧州の財政問題などの影響により、先行きは不透明と、難しい1年になりました。長く続く円高に苦しむ各メーカー様とお話しても、暗中模索のようです。景気の先行きを見定められないため、IT関連投資の動きは鈍く、投資マインドは冷えています。

昨年は、操作方法に大きな変化を遂げたWindows 8がリリースされ、2014年にサポートが終了するWindows XPからのリブレース需要が期待されています。ビジネス市場への導入動向としては、まずはWindows 7へのリブレース。そして、モバイル用途に向けたWindows 8の試験導入が進むと予想しています。また、Windows 8を搭載したスレートPCやウルトラブックといった魅力ある新しい製品の登場も明るい話題です。

新しいWindowsの登場、さらには普及の進むiPadなど、混在するクライアント環境の管理、Windows Server 2012への移行は、簡単ではありません。このような背景のなかY2K以来、システムを再構築する大型案件の動きはまだありません。そして中堅・中小企業の皆様には、ITの力で生産性を高め、経費を削減する余地がまだまだ存在しています。この大きなビジネスチャンスを逃さないためにも、準備を進めておく必要があります。

弊社ならではのサービス充実し パートナー様にプラスアルファを

ビジネスパートナー事業部では、パートナー様が自社のソリューションと組み合わせて、エンドユーザ様にご提案

できるサービス&サポートに力を入れて参りました。

その中でも2010年に開設した「PSC(パートナーサービスセンター)」は、パートナー様のPC修理専用窓口として、ご好評をいただいております。メーカー保証や技術者によるオンサイトサポートでは、サービスを受けるまでに、煩雑な手続きが必要です。PSCでは、弊社から販売したPCに関して、電話1本で回収から修理、返却をワンストップで行っています。実際に利用されたパートナー様からは、「マルチベンダーに対応し、短納期で助かる」「実際に利用してみて便利さを実感した」「修理サービスのおかげで売上げが伸びた」とご好評いただいております。

また、サプライビジネスを始めたいとお考えのパートナー様のご要望に答えられるのも大塚商会ならではの『たのめーる』の仕組みを利用した『TPS-SHOP』は、オフィスで必要なサプライをすべてご提案いただける豊富な商材が魅力です。パートナー様が販売されたコピー機やプリンタのトナーや用紙はもちろん、飲料水からLED照明までご提供いただけます。

これらに加え、弊社のインフラをそのまま活用していただけるWeb回線サービス『アルファメール』やSaaS販売プラットフォームの『BP PLATINUM Type-S』などをパートナー様本来のビジネスにプラスしてご提案することにより、バリューが増して、ビジネスを拡大するチャンスが生まれます。

これらを基盤として、パートナー様を支援するサービス&サポートの体制が充実しています。弊社とお取引いただく大きなメリットを存分にご活用いただき、他社とは違う部分で協力できればと思っております。

2013年もパートナー様の声に耳を傾け、エンドユーザ様のご要望にお応えできるよう、新しい試みや施策をご提案して参ります。旧年同様、本年も大塚商会ビジネスパートナー事業部をどうかよろしくお願いいたします。

巻頭
特集

2013年のITビジネス市場予測

パートナー様の ITビジネスを 飛躍の年へ

東日本大震災を機に高まった事業継続／災害復旧（BC/DR）の対策にも
ひとまずのめどが立ち、2012年は競争力の強化に向けた
企業の取り組みが再び盛んになった。

2013年初頭、長く続いたデフレからの脱却を命題とする
新政権の動向が注目されている。

そこで本特集では、2012年のITビジネスを振り返り、
投資効果があったと感じられるソリューションに注目する。
パートナー様のITビジネスを飛躍させる
きっかけとなれば幸いである。



機器の高性能化や新たなサービスの登場

これまでのIT投資で効果の感じられるのは？

大きな効果があったのは 「業務プロセスの効率化」

日本情報システム・ユーザー協会の調べによれば、企業がITへの投資で解決したいと考えている中期経営課題のトップ3は、「迅速な業績把握」「迅速な情報把握(リアルタイム経営)」「業務プロセスの効率化」のそれぞれ。これらに続くのが、「基幹業務システムのクラウド化」「基幹業務システムのSaaSへの移行」「ネットワークの最適化」などの具体的なテーマだ。

70～90%の企業が「効果があった」とするのは、業務プロセスの効率化だ。

例えば、コンピュータをより高性能のものに買い替えることによる待ち時間のカット。サーバの処理速度が上げられればある業務画面から別の業務画面に移る際の時間も短くなるし、夜間バッチの

処理時間を短縮できれば残業代もそれだけ減ることになる。

また、従業員がデスクで使用するPCを最新モデルに入れ替えると業務プロセスの効率が高まる。最新のPCは起動が速くなっているのも無駄な待ち時間を減らせるし、Windows 8とWindows Server 2012を組み合わせればファイル共有に要する時間もグンと短くなるからだ。

さらに、社外で使うためのノートPCやタブレット端末を導入することにより、業務に戻るまでの時間を大幅に短縮できる。移動中の電車・新幹線や宿泊先のホテルでもオフィスにいるときと同じように仕事ができるので、“ロスタイム”はほぼゼロ。同じやり方で従業員の自宅から業務システムを使えるようにしておけば、大規模災害やパンデミック(新型インフルエンザなどの大流行)に備えるた

めの事業継続対策としても活用できる。

時間も費用も節約できる Web会議システムが人気

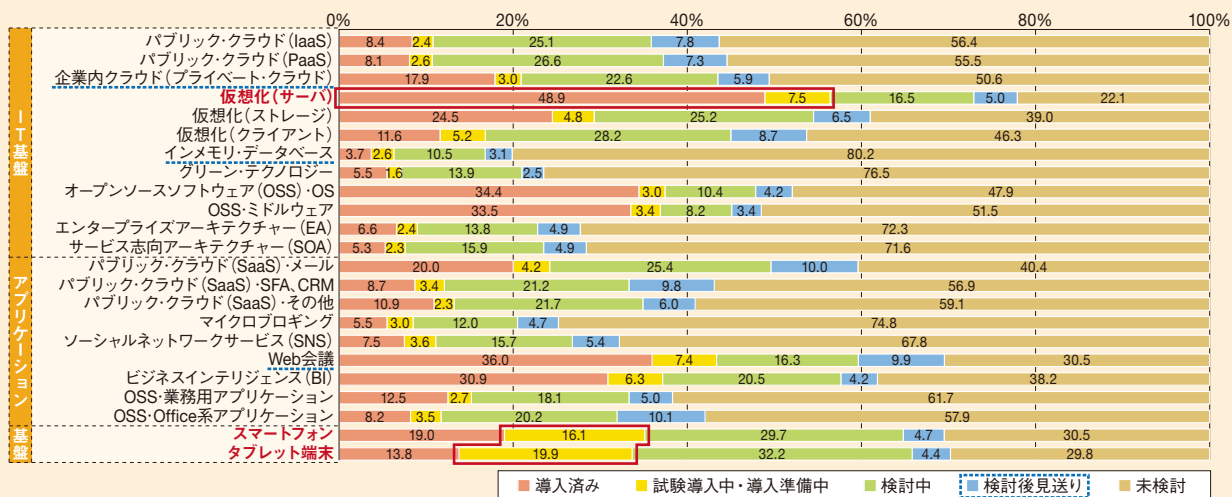
移動時間と旅費・宿泊費の両方を削減できるIT投資対象として、Web会議システムも人気を集めている。従来のテレビ会議システムは大型の専用機器と高速の専用回線を必要とするため、それが設置された会議室にメンバーが集まって利用する形態しかとれなかった。これに対して、現在のWeb会議システムはネットワークに接続された個人のPCを使う仕組みになっていて、気軽に使えることがポイント。クラウドサービスとして提供されるものを選べば高価なサーバも不要だ。

次のページからは、2013年の注目キーワードから市場の動きを予測し、効果的な提案を模索したい。

企業IT動向調査2012年(11年度調査)

新規テクノロジーの導入状況(全般)

社団法人日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)の調査結果。サーバ仮想化は実施済みとした企業が多かった。試験導入中・導入準備中の上位はタブレット端末とスマートフォン





BI、DWH、省電力、BYODなど

注目を集めたキーワードから2012年を振り返る

ソフトでは可視化や分析のためのBIやDWH、ハードでは省電力

2012年において“重要”とされたIT投資対象の多くは、今後数年はリストの上位を保持し続けることになる。その結果、業務プロセスの効率化にある程度の道筋がついた企業を中心に、「迅速な業績把握」と「迅速な情報把握(リアルタイム経営)」に向けたIT投資が増える可能性がある。具体的なソリューションには、ビジネスインテリジェンス(BI)、データウェアハウス(DWH)、ビッグデータ解析など。いずれも大量のデータを扱う処理なので、パブリッククラウドサービスやASP型サービスの比率が高まるに違いない。

クラウドサービスについては、データベースの置き場を提供するストレージクラウドサービスにも注目したい。データはアプリケーションよりもクラウドサービスに移行するのがたやすく、事業継続性を高めるための対策としても有効性が高いからだ。

コンピュータ本体に関するメインのキーワードは、2013年も「省電力」。温室効果ガスの排出量を削減したり電気代を節約したりできるという利点もさることながら、消費電力や発熱量が大きなサーバは外部データセンタに預かってもらうのが難しいという切実な問題があるからだ。高性能・超低消費電力型のサーバ用プロセッサIntel Atom S1200が昨年末に発表されていることから、この傾向は少なくともあと数年は続くと思われる。

BYODが脱PC化を加速、WindowsとOfficeの更新も

従業員向けデバイスの領域では、「脱PC化」がさらに進行する。タブレット端末やスマートフォンの性能がますます向上していることに加えて、PCの側でもWindows 8がタブレット端末の操作スタイルを全面採用したことが脱PC化のおもな促進要因。Ultrabookにタブレット端末切り替え型が多いのも同じ理

由からだ。脱PC化を促すもう一つの要因として、BYOD(私物デバイス持ち込み)、BYOA(私物アプリケーション持ち込み)、BYOS(個人で契約したサービスを社内で使用)などの新しい動きがある。自分にとって使いやすいデバイス、アプリケーション、サービスのほうを選ぶ人々にとっては、それがPCであるかどうかよりも、作業を快適に進められるかどうかのほうが重要なのだ。実際、Webベースの業務アプリケーションや仮想デスクトップ基盤(VDI)上のデスクトップアプリケーションであれば、PCでもタブレット型端末でも同程度の操作感は得られると考えてよい。

ソフトウェア領域のキーワードとしては、まず「Windows Server 2012/Windows 8」が挙げられる。2013年のうちにアップグレードする予定がないとしても、技術情報を収集し、将来に向けた検討は進めておく必要はあるだろう。新しいOffice(Office 2013)やOffice 365への対応も要検討テーマだ。

12月2012年のおもな出来事

IT関連

2012. 3	新しいiPad(第3世代)が登場
2012. 3	イーモバイルがEMOBILE LTEサービスを開始
2012. 4	Microsoft SQL Server 2012が登場
2012. 6	Ultrabookが登場
2012. 6	World IPv6 Launch開催
2012. 7	Mac OS X Mountain Lionが登場
2012. 9	Windows Server 2012が登場
2012. 9	iPhone 5が登場
2012. 9	au by KDDIが4G LTEサービスを開始
2012. 9	ソフトバンクモバイルがSoftBank 4G LTEサービスを開始
2012. 10	Windows 8が登場
2012. 11	Xeon Phiプロセッサが登場
2012. 11	Itaniumプロセッサ9500製品ファミリが登場
2012. 11	iPad miniと新しいiPad(第4世代)が登場
2012. 12	新しいOffice("Microsoft Office 2013")の企業向けボリュームライセンスが登場

政治・外交・経済・社会

2012. 3	国内初の格安航空会社「ピーチ」が運航開始
2012. 4	新東名高速の御殿場・三ヶ日間が営業開始
2012. 5	国内の全原子力発電所が営業運転を停止
2012. 5	金環日食
2012. 5	東京スカイツリーが開業
2012. 6	違法ダウンロードを処罰する著作権法改正案が成立
2012. 6	RIO+20開幕
2012. 8	消費税法改正案が成立
2012. 8	韓国大統領が竹島を訪問
2012. 8	あべのハルカスが日本一高いビルに
2012. 8	ロシアがWTOに加盟
2012. 9	尖閣諸島を国有化
2012. 10	JR東京駅丸の内駅舎がオープン
2012. 10	ノーベル医学生理学賞に山中伸弥教授
2012. 11	米大統領にオバマ氏が再選される
2012. 11	中国共産党総書記に習近平氏が就任
2012. 11	COP18開幕
2012. 12	衆議院議員選挙・東京都知事選挙

社会に変革をもたらすソリューション

2013年の市場予測と効果的な提案とは？

データ分析ソリューション

まず、多くの企業が検討中あるいは部分的に着手中としている領域にデータ分析ソリューションがある。「迅速な業績把握」と「迅速な情報把握(リアルタイム経営)」を目的とした、ビジネスインテリジェンス(BI)、データウェアハウス(DWH)、ビッグデータ解析などのソリューションだ。BIは基幹系業務アプリケーションのデータベースを直接に分析、DWHはそこから抽出・加工した別データベースに対する多次元解析、という違いはあるものの、両ソリューションの担当分野には重なるところも多い。

かつては一部の大企業でしか活用できないとされていたビッグデータ解析も、より広範な企業で利用されつつある。そ

もそも、ビッグデータの条件とされる“3V”とは、ボリューム(大きな容量／大量の件数)、バリエティ(多様なデータ形式)、ペロシティ(高い発生頻度／急激な増加)のそれぞれ。件数がそれほど多くなくても従来のBIやDWHではうまく分析や解析ができないようなデータに試してみる価値はある。

提案にあたっては、分析の結果を経営や実務に反映するための道筋を示すことがポイント。専任のデータ分析担当者を置くことができない企業には分かりやすい可視化ツールとの組み合わせや業績管理ツール(BPM/CPM/EPMなど)との連携も勧めるべきだろう。

クラウド構築／活用ソリューション

2013年においても、クラウドコンピュー

ティングはITビジネスがもっとも盛んに行われる活動領域となる。先行している企業でもクラウド化されているのはシステム全体から見ればごく一部であり、適用範囲はまだまだ広がるからだ。

とは言うものの、クラウドコンピューティングにはさまざまな形態がある。

もっとも分かりやすいのは、「所有から利用へ」というコンセプトにはこだわらず、「コンピュータリソースの割り当て量をいつでも自由に追加・変更できる」という特性のほうを最大限に享受する使い方だ。一般にはプライベートクラウドとも呼ばれることも多い。ハードウェアの置き場所は、自社のデータセンタやサーバールームでも、外部データセンタのハウジング(場所貸し)でもOK。最大のメリットは、その企業ならではのニーズに合ったハードウェア／ソフトウェアを使えることにある。

2012年注目された商材

モバイルデバイス管理(MDM)

スマートフォンやタブレット端末から企業の重要データが流出するのを防止する製品。ネットワーク経由のロック、データ消去、位置追跡などの機能が典型的。ユーザが勝手に組み込んだアプリを強制消去する機能もある。

標的型攻撃対策ソリューション

標的型攻撃(APT)に対抗するためのセキュリティ製品。サンドボックス(疑似環境)で振る舞いを調べてから添付ファイルを開くようにしたり、トラップドアが設置されるのを監視したりする方式の製品が多い。

電力対策ソリューション

電気事業法27条に基づく需給調整や電気供給約款に基づく計画停電に備えるソリューション。ハードウェアの消費電力監視、タイマーによるオンオフ制御や充放電管理、仮想マシンを使った“片寄せ”制御などの機能がある。

データ復旧ソリューション

バックアップしておいたデータから復元する方式のほか、変更点を小刻みに記録する継続的データ保護(CDP)にも注目が集まった。破壊されてしまったディスクからデータを救出するサルベージサービスも知られるようになる。

ストレージ仮想化

サーバに続く仮想化の対象としてストレージが浮上。方式や容量が異なる複数のストレージを一つに束ねて管理し、単一の大容量ストレージとして使えるようにする製品が多数登場した。後からの追加・継ぎ足しも自在にできる。

スマートデバイスを安全に活用するために

急速に普及したiPhone/iPadやAndroidをビジネスでセキュアに活用するためには、MDMが必須といえる。



StorMagic SvSAN5.0



2012年12月、ネットワールドから、仮想ストレージソフトウェアの代表的な製品「StorMagic SvSAN」の最新版がリリースされた。

このほか、データベースを格納するストレージだけを借りる「ストレージクラウド」もメリットが分かりやすいクラウドサービスだ。

一方、「所有から利用へ」を重視する場合は、ハードウェアをホスティング（賃借）する、仮想ハードウェアをIaaS（Infrastructure as a Service）で借りる、OSとミドルウェア込みの仮想ハードウェアをPaaS（Platform as a Service）で借りる、アプリケーションだけをSaaS（Software as a Service）で利用する、のいずれかを選ぶことになる。ハードウェアやソフトウェアが自前ではなくなるので“かゆいところに手が届くような”使いやすさは望めないものの、月末や期末などのピーク時だけの増強ができるのは便利だ。

仮想デスクトップ基盤（VDI）／シンクライアントソリューション

PCのPCたる“ゆえん”は、内蔵ハードディスクにアプリケーションとデータを格納できる点にある。しかし、タブレット端末やスマートフォンの普及による脱PC化の進行、社外に持ち出したデータが盗難・紛失によって流出してしまう危険性、災害やパンデミック時に従業員が自宅で業務を続けられる業務継続性などの観点から、仮想デスクトップ基盤（VDI）とシンクライアントの組み合わせも現実的なソリューションとなってきた。

このソリューションでは、サーバやクラウドにアプリケーションとデータを格納しておき、さまざまなデバイスからネットワーク経由で利用させるといった形態をとることになる。デバイスとしてはPC、シンクライアント、タブレット端末やスマートフォンのいずれも使用可能。PCの場合も内蔵ディスクに企業の重要データが格納されてしまうことはないので安心だ。

ただし、ネットワーク経由の利用ならではの危険性については十分に手当をする必要がある。商談を進める際は、VPNなどのセキュアな接続サービスや多要素認証などの安全な認証システムも含めた包括的なソリューションとして提案する必要があるだろう。

なお、このVDI相当の機能をクラウドサービスとして提供するDaaS（Desktop as a Service）も注目のソリューションである。

データ保全ソリューション

アプリケーションは再インストールや買い直しができるが、失われたデータは決して元に戻せない――。

この考え方に立ち、もっとも基礎的な事業継続対策として普及させていきたいのがデータ保全ソリューションだ。重要データの控えを離れた場所に保管しておき、ハードウェア障害や災害が発生したらその控えを使ってシステムの復旧と事業の継続を図るのである。

もっともお手頃なソリューションとなるのが、磁気テープにデータをバックアップして遠隔地に保管する方式。古くからあるやり方なので華やかさはないものの、確実かつ低価格であることが魅力

だ。月次処理のデータや各種のログの保全には最適な方式である。

より直近のデータまで保全する必要がある業務システムには、離れた場所にあるデータセンタ内のサーバやストレージにバックアップするソリューションが適する。どの時点のデータまで保全できるかによって価格には大きな幅があるが、一般の企業が使うのなら数分程度の遅れ（保全漏れ）は許容してもよいだろう。ストレージクラウドの多くも、この方式に属する。

企業内ソーシャルソリューション

Facebook、Twitter、LINEなどのソーシャルメディア／ソーシャルネットワークサービス（SNS）を企業の業務遂行に活用しようとするのが、企業内ソーシャルという考え方。BYOS（個人で契約したサービスを社内で使用）への対応としても、きわめて有効だ。

企業内ソーシャルが一般のソーシャルと異なるのは、完全にクロードな世界になっていること。他の企業や顧客／取引先に見られてしまうことはない。新製品の企画・開発や価格政策に関する話題も安心して書き込めるという利点がある。BP

2013年注目のキーワード

ハードウェアの世界では、複数のサーバ、インターコネクト（サーバ間高速ネットワーク）、ストレージ、OS、ミドルウェアなどを組み合わせてチューニングした「統合システム」の人气が徐々に高まってきた。オープンシステムのコンセプトからは多少逸脱することになるが、特に高い性能が求められる用途（DWH、BI、ビッグデータ解析など）には最適なソリューション。単一ベンダーの製品を組み合わせるので、サービス／サポート面でも安心だ。

業務アプリケーション周りでは、復興増税（所得税と住民税）に伴う「賃金計算システムのメンテナンスや消費税の税率変更」（2014年4月と2015年10月の予定）に向けた準備が2013年のおもな作業項目となる。



国税庁のホームページでは、復興特別増税に関する情報が公開されている

<http://www.nta.go.jp>

Windows 8の導入予測

2013年は、旧Windowsからのリプレイスに期待!

物販はWindowsのリプレイスを中心に展開

販売開始後の数日で400万本(全世界)の売上を達成したと言われる、Windows 8。Windows 7の時よりも急速に伸びていることから、IT業界の期待も高まっている。

ただ、企業ユーザの場合は現有PCのリース期間満了に合わせてアップグレードするのが一般的。Windows 8への移行は数年をかけての長期プロジェクトになるとみるべきだろう。

商談を進めるにあたっては、顧客が現在使っているWindowsのバージョンを考慮した提案をすることがきわめて重要だ。リース期間と“人気”の関係から、現在市場にもっとも多く残っているのはWindows XP

であり、Windows VistaとWindows 7は、まだまだ少ない。Windows 7からのアップグレード(リプレイス)を勧める場合は「残存価値がまだ十分にあるのに……」という顧客の思いに応えたオファリングが欠かせない。

一方、大多数を占めるWindows XPユーザに対しては、延長サポート満了日(2014年4月8日)の喚起を行うとともに、“Windows XPでなければ動作しないアプリケーション”の救済策を示す必要がある。すでに販売終了になっているアプリケーションについては、Windows 8に標準装備されたHyper-Vの仮想マシン上でWindows XP SP3を稼働させて対処する

のがよいだろう。ただし、この使い方は、ベンダーは推奨していないため、注意が必要だ。



Windows 7とWindows 8のどちらにせよ 2013年は、リプレイスが見込まれている。

タブレットとWindows 8の追加導入

Windows 8の特長の一つは、タブレット端末に似た使い方を全面的に取り入れたこと。例えば、画面のタッチ、ピンチ、スワイプなどの操作だ。そこで、従来のPCとは異なるジャンルのデバイスとして外出や出張が多いビジネスマンに勧める戦略も有効だ。

まず、昨年10月に登場したWindows RTタブレット。デスクトップアプリケーション(旧来のWindowsアプリケーション)を使えないという弱点はあるが、Windowsとの親和性が高いタブレット端末として絶大な人気を集めている。

さらに、2013年には普通のWindows PCと同じように使えるWindows 8タブレットも登場する。価格はWindows RTタブレットに比べて少し高めにはなるものの、PCとの親和性や性能面を重視する企業にはベストの選択肢となることだろう。

このほか、厳密にはタブレット端末では

ないが、Ultrabook PCの中にもタブレット端末として使える製品がたくさんある。Ultrabook PCにはしっかりしたキーボードがついているので、大量の文字入力も楽々こなせることがポイント。長期出張などには、こちらのほうが使いやすいかもしれない。

2013年の物販はWindowsのリプレイス案件を中心に展開されることは間違いない。サポートの終了期間が迫っている

Windows XPからのリプレイスでは、単なる物販だけでなく、より投資に見合った効果が得られるソリューションと組み合わせることが、パートナー様のITビジネスを大きく飛躍させるポイントとなる。大塚商会には、エンドユーザ様の経費を見直し、企業を元気にするITソリューションを豊富に取りそろえている。これらをご活用いただき、2013年、パートナー様とともに発展できれば幸いである。

Windows 8のメリットをアピール



IT Keyword
最新ITキーワード

多要素認証／2要素認証

【multifactor authentication(MFA)／two-factor authentication(TFA)】

コンピュータやネットワークのセキュリティ強化策として注目を集めているのが、複数の情報を使う多要素認証／2要素認証の技術。電子証明書内蔵の認証トークンや生体認証装置などの製品がすでに登場している。

コンピュータやネットワークのセキュリティは、アクセスしようとする人をディレクトリ(登録簿)などで確かめる「ユーザ認証」をその基礎に置いている。登録を確認できない場合は、アクセスを拒否。登録されている場合も、その人に与えられている権限レベルに基づいて、利用できる機能やアクセスできるデータの範囲を制御するというのが定石だ。

ただ、WindowsやLinuxなどの多くのOSで採用されている「ID+パスワード方式」はけっして強力な仕組みとはいえない。当てずっぽうでIDを入力してもパスワードが合致しなければアクセスを拒否できるというものの、少ない試行回数で防御を破られてしまうことがあるからだ。

多くのセキュリティ研究機関が発表している調査結果によれば、「12345」「abc123」「qwerty」(キーボードの英字最上段の左端からの並び)「password」といったパスワードの強度はゼロに等しいとのこと。悪意をもった侵入者は、まず、このような「よくあるパスワード」から試していくからだ。また、辞書に載っているような英単語をパスワードに使うのも非常に危険だ。コンピュータの高性能化にともなって認証サーバの処理速度が向上したため、辞書にある単語を端から順に試してみる総当たり攻撃法がかえって容易になってしまったのである。

このような背景から今注目を集めているのが、多要素認証と呼ばれる技術だ。「多要素」とは、パスワード以外の情報もユーザ認証に利用するという。現在販売されている製品やソリューションでは、2要素認証や3要素認証に対応したものが多く。

パスワードも含めて、ユーザ認証に使われる情報はSYK、SYH、SYAの3種類に大別できる。

SYKとはsomething you know(何を知っているか)の

こと。パスワードのほか、パスワードを忘れたときの「ヒント」として使われる「母の旧姓」や「最初に飼ったペットの名前」もSYKに分類される。費用はかからないものの、得られるセキュリティレベルはそれほど高くないため、多要素／2要素認証製品での採用例はほとんどない。

製品での採用例が多いのは、something you have(何を持っているか)を意味するSYHと、something you are(どんな身体的特徴を持っているか)を意味するSYAの2方式だ。このうち、SYHでは、複製が難しい電子証明書を埋め込んだスマートカード(ICカード)や認証トークン、内蔵時計によって刻々と変わるワンタイムパスワード(OTP)を発生させるトークンなどの装置がおもに使われる。IDとパスワードで仮ログインした後に、自分の携帯電話／スマートフォンにメールで送られてきた第2のパスワードを入力するとログインが完了するという方式も、SYHの一種といえよう。

一方、SYAではバイOMETRICS(生体認証)技術を利用してアクセスしようとする人が正当なユーザであるかどうかを確認する。もっともよく知られているのは、モバイル機器や現金自動預け払い機(ATM)で採用されている指紋や手のひらの静脈パターンなど。ノートPCでは顔画像、保安システムでは虹彩(瞳)パターンや声紋なども使われている。

多要素／2要素認証の製品やソリューションを提案するにあたっては、コストが適正で、本人拒否率(FRR)も他人受け入れ率(FAR)も低く、使用者の利便性を損ねないことが重要だ。また、どのような認証方式にも弱点があることを十分に説明したい。ユーザ認証だけに頼るのではなく、その他の技術も利用した多段階のセキュリティの必要性をとき、案件の採用につなげたい。

進化する

IT 基礎技術の可能性

text by 石井英男

1970年生まれ。ハードウェアや携帯電話などのモバイル系の記事を得意とし、IT系雑誌やWebのコラムなどで活躍するフリーライター。

ARMに負けない低消費電力を実現した「Atom Z2760」とは？

2012年9月、インテルが発表したAtom Z2760は、開発コードネーム「Clover Trail」と呼ばれていた、Windows 8タブレット用に開発されたSoCである。SoCとは、System on a Chipの略で、1チップにシステムに必要な機能を集積したものだ。通常、PCを構成するには、CPU以外にチップセットと呼ばれるチップが必要になるが、Atom Z2760は、CPUコアを中心にGPUやメモリコントローラー、各種インターフェースコントローラーなどが集積されているため、あとはメモリチップとストレージなどを用意するだけで、PCの機能を実現できる。SoC化により、チップの数を減らすことができるため、消費電力の削減とコストダウンに貢献する。また、マザーボードをよりコンパクトにできるというメリットもある。

これまで、x86ベースのWindowsタブレットは、ARMベースのAndroidタブレットやiPadに比べて、バッテリー駆動時間が短いことが欠点であったが、Atom Z2760では、新たな省電力技術を搭載することで、消費電力を大幅に下げることが成功しており、ARMベースの製品に負けない駆動時間を実現できるようになった。その新たな省電力技術が、S0ixと呼ばれる新たなシステム動作状態のサポートである。Windowsが利用している省電力規格ACPIでは、システム動作状態をスリープ・ステイトとして規定しており、S0がフル稼働状態、S1がスリープ状態、S3がスタンバイ状態、S4が休止状態となる。Atom Z2760では、新たにS0i1とS0i3という2つのステイト（その総称がS0ixである）が追加されており、S0ステイトのまま、SoCの消費電力を劇的に下げることが可能なのだ。S0i1では、CPUが非常に消費電力の少ないC6ステイト（Deep Power Down）に移行するだけでなく、GPUやビデオエンジンなども低消費電力モードに移行し、消費電力を数mWに削減できる。S0i1からの復帰時間はμ秒オーダーであり、利用者は低消費電力モードに入っていることを意識せずに、そのままOSを使うことができる。S0i3ではさらにGPUやビデオエンジンへの電源供給も完全にカットするため、消費電力は数

μWまで低下する。S0i3からの復帰はm秒オーダーであり、S0i1よりは時間がかかるが、いわゆるスリープ（メモリサスペンド）からの復帰に比べれば遙かに高速だ。

また、S0ixのサポートは、バッテリー駆動時間を延ばすだけでなく、使い勝手も大きく向上させてくれる。従来のx86ベースのシステムは、ARMベースのスマートフォンやタブレットと異なり、スリープや休止状態からの復帰に時間がかかることが弱点であったが、Atom Z2760搭載システムなら、使わないときにはS0i3に移行させておくことで、電源ボタンを押すだけですぐに使い始められるようになるのだ。さらに、Windows 8の32bit版では、Connected Standbyと呼ばれる新機能がサポートされている。Connected Standbyは、システムをスリープ状態にしても、インターネットとの接続が維持される機能であり、こちらもS0ixのサポートが前提となる。そのため、現状でConnected Standbyを利用できるのは、Atom Z2760搭載システムのみとなる。メインストリーム向けCPUであるCore iシリーズは、現時点ではS0ixをサポートしておらず、2013年前半登場予定の次世代Core iシリーズ「Haswell」（開発コードネーム）まで待つ必要がある。S0ixは、今後のx86プラットフォームの展開の鍵を握る重要な機能であり、Atom Z2760は、その新機能をいち早くサポートした先進的な製品といえるのだ。Windows 8を搭載するピュアタブレットは、これから本格的にリリースが始まる。製品の優位性を理解したうえで提案し、案件獲得につなげたい。BP



レノボから登場したWindows 8タブレット「ThinkPad Tablet 2」。Atom Z2760を搭載し、厚さ9.8mm、重量約570gの薄型軽量ボディを実現。